

大会特別規定

1. チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には、棄権とみなす。但し、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議して決定する。
2. 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の30分前とする。(但し、開会式直後の試合は、開会式終了後直ちに行う。)第2試合以後は、前試合の4回終了後とする。各チームの主将は、所定のメンバー用紙3通(放送がある場合は4通)を持参し、本大会本部に来ること。
3. 全試合、7イニングとし、得点差によるコールドゲームを適用する。但し試合成立は5回とし、暗黒・降雨によるコールドゲームは適用する。

【以下は細則第7項の試合規程を適用の抜粋】

コールドゲームは、5イニング以降7点差以上をもって適用する。

【特別ルール】

- 所定のイニング、所定の時間をもって終了時点で同点の場合は、次の特別ルールで勝負を決する。
- 無死、満塁の状態にして1イニング行い得点の多いチームを勝とする。
- 打者は継続打者とし、走者は当該打者の順次前とする。
- 選手の交替は、通常の試合同様にできる。
- 但し、一度試合から退いた選手は出場できない。
- 尚、1イニング行い同点場合は、上記同様の条件として、継続打順で行う。
- 決勝戦は、上記のコールドゲームを適用せず9イニングまでの延長を認める。
4. 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、5回以前に中止になった場合(ノーゲーム)でも、5回を過ぎ正式試合になって同点で試合が中止の場合でも、原則として再試合にしないで、翌日の第1試合に先だって特別継続試合を行う。但し、決勝戦は再試合とする。
 5. ベンチは、抽選番号の若い方を1塁側とする。先攻・後攻はじゃんけんで決める。
 6. シートノックは、行わない。グラウンドには、監督、コーチ、登録選手20名で、事前練習等を行うものとする。
 7. メガホンは監督のみ使用することができる。
 8. バットホルンは監督、鉄棒等の球場への持ち込みを禁止する。
 9. 事故防止のために、捕手のマスク・レガース・プロテクター・ヘルメット・ファールカップと打者、次打者、走者・ランナーコーチのヘルメットは必ず着用すること。
 10. バット、マスク、ヘルメット、その他用具等は、試合前に審判員の確認に届けなければならない。
 11. 突発事故が起きた場合に、一時走者を変えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合はこれを許可する。尚、審判員の判断でも可。(臨時代走、投手を除く打順前位の者とする。)
 12. 選手交代の申し出は、監督が行う。
 13. ルール上の疑義に対しては、当事者と監督が直接、質問することができる。
 14. 天候等(降雨・雷)によって、試合の進行を中断することがある。
 15. 監督はファウルラインを超えてダイヤモンドの中に入れる。但しかけ足のこと。
 16. 野球規則5.10原注(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許さない。)と野球規則5.10原注(1イニングに投手へのアドバイスのためにタイムが2回とられた場合、自動的に投手交代になる。)は本大会で適用する。
 17. 各チームの監督かコーチは、球場を去る前(試合終了30分以内)に本部に連絡し、次の試合の日程を確認する。
 18. 監督・コーチは選手と同形、同意匠、同色の服装(帽子・ユニホーム等)を着用する。
 19. 勝ちあがりにより試合が続く場合は、前試合の終了後、次試合開始までは30分間の休憩時間を確保する。
 20. グラウンド内での練習は、ダイヤモンド以外で行う。
 21. その他、上記特別規程に明記なきことは、全軟連の競技規則並びにIBA-boys 中学部運営規定細則に準じて行う。
 22. 投手の投球制限については、1日7イニングまでとする。【尚、決勝戦の延長回数、及び特別延長戦の投球回数は数えない】
3分の1イニング(アウト1つ)未満の場合であっても1イニング投球したものとして数える。

競技上の注意事項

1. 天候等による大会実施の可否については、各チームに大会本部より連絡する。
2. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチはミーティングに参加せず、直ちに所定の場所につくこと。
3. 攻守交代のとき、投手又は投手プレートに最も近い野手がボールをプレート近くに置く。
4. 打者は、みだりに打者席をはずしてはいけない。サインは、打者席から見ること。
5. 無用のタイムは慎み、試合進行に協力すること。
6. 試合中のグラウンド内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際投手の投球が始まったら、次打者は、ネクストバッターサークルで待つこと。
7. テーピングは投手の指先は禁止とし、その他については審判団の判断に従うこと。
8. ファウルボールの処理は、両チームが行う。
9. 本塁打を打った打者に握手を求めるため、グラウンドに出てはいけない。ベンチ前は可とする。
10. 「野次」は絶対に慎むこと。
11. 中学生らしくない危険なプレーは行わないこと。
12. 選手は、スポーツマンとして恥ずかしくない態度をとるように心がけること。
13. 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんですべて完了するものとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
14. 応援団は、次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督、コーチが責任を持って指導すること。
 - (1) 紙吹雪、紙テープ、個人名を書いたのぼり等の使用。
 - (2) 「野次」など相手チームに不利になるような応援。
 - (3) 応援席を散らかしたまま帰ること。
15. スコアカード（本部で用意）に自チームの攻撃、及び自チーム投手の投球回数を記録し本部に提出する。
16. 試合時間、試合終了時間時の考え方
 - ① 決勝戦以外の試合時間は、100分とする。
 - ② 後攻チームが負けている状況で、（そのイニングに試合終了時間となり）攻撃を続けて逆転した場合は、逆転を持って試合を終了する。（次の回には進まない）
 - ③ 後攻チームが負けている状況で、（そのイニングに試合終了時間となり）攻撃を続けて同点となった場合は、特別継続試合を行う。（次の回には進まない）
 - ④ 先攻チームが勝っている場合では、（そのイニングに試合終了時間となり）その回の後攻を行い試合終了とする。尚、時間については、運営委員が開始時間を両チームに伝える。
計測は運営委員が行う。
また、最終回、及び残り時間についての通告は、行わない。

令和2年1月変更